

自閉症の子どもの障害の特性の理解と個に応じた支援のあり方 ～内面を見つめ、より豊かに生きる生活をめざして～

鳥取県教育センター教育相談課 研修生
鳥取県立白兔養護学校 教諭 松井由美子

1. 研究テーマについて(国の動向を踏まえて)

「21世紀の特殊教育の在り方について

～一人一人のニーズに応じた特別な支援の在り方について～(最終報告) (平成13年1月)

知的障害と自閉症を併せ有する児童生徒等に対し、この二つの障害の違いを考慮しつつ、障害の特性に応じた対応について今後も研究が必要である。

「自閉症に特化した教育」が必要

知的障害養護学校に在籍する自閉症のある**児童生徒の割合の多さ**
養護学校では約3割の在籍

自閉症の児童生徒の指導上の困難さ

- ・問題行動
- ・集団参加が難しい
- ・コミュニケーションがとりにくい

知的障害教育の内容や方法だけでは**適切な指導がなされない場合もある。**

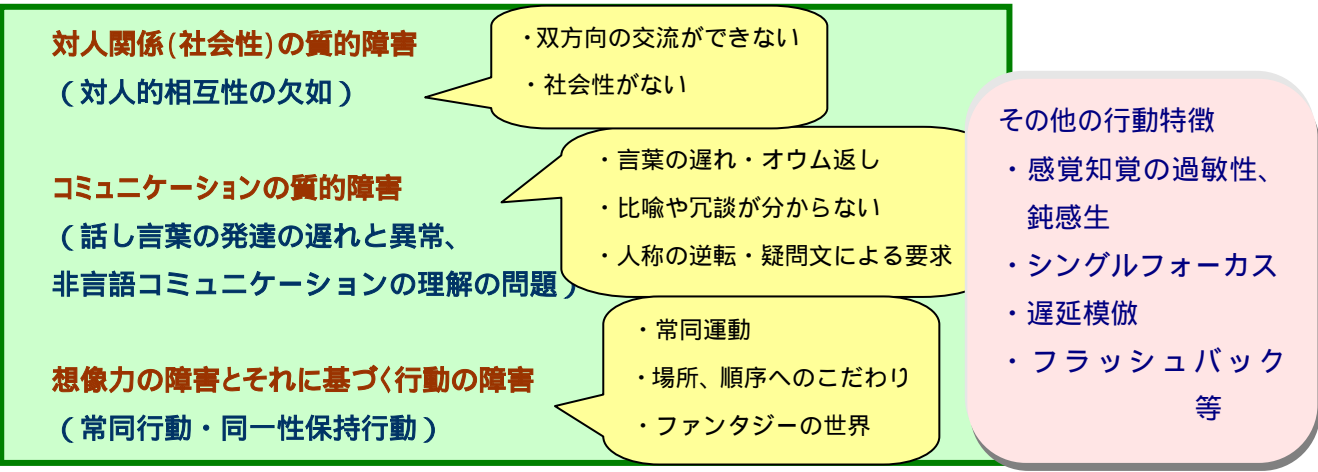
↓
《研究の目的》

自閉症の子どもを理解して、適切に支援するにはどんなアプローチを用いるとよいか？

自閉症の子どもがより豊かな生活をしていくためには個々にどんな支援をしていけばよいか？

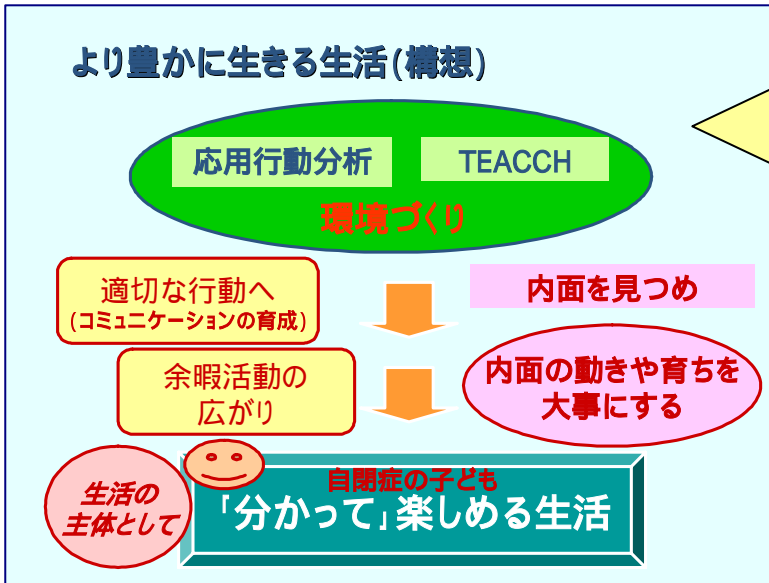
2. 自閉症の子どもを理解する(障害特性と発達).

* 自閉症の特性 (Wing の3つ組)



* 発達 ・自閉症の発達過程を踏まえて、個々の子どもの発達段階を知る。

3, より豊かに生きる生活の構想(実践に向けて)



自閉症の人の文化を尊重し、
文化の違いを前提にしながら
共に生きていこうとする考え
方からのアプローチ

子どもが主体的に
活動するためには
心の動きが重要！
内面を把握し、内面
に働きかける。

4. 実践 (実践を行った個々の子どもの実態に合わせた具体的な支援の例)

**適切な行動へ
(コミュニケーションの育成)**

* ソーシャルスキルの活用

場面の状況を把握する

気持ちを考える

ロールプレイをする。

どうしたらよいか、
よかったか考える。

* 自発的なコミュニケーションが多くなり、困った場面で自分の気持ちや伝えるべきことを話すことができるようになった。

余暇活動の広がり

* エアロビクスを取り組み

動きを絵で示したカード(視覚的提示)

パー ゲー シューシュー

スケジュール

* エアロビクスの動きを覚え、余暇のレパートリーを広げた。

5, 研究のまとめ

自閉症の子どもを理解するためには、まず障害の特性と発達を知ることが大事である。アセスメントにより個々の子どもの特徴を知り、発達の課題に照らし合わせながら、より豊かな生活をめざした目標を設定する。効果的なアプローチの方法(TEACCHプログラム、応用行動分析)を用いて個々に合わせた支援を工夫する。自閉症の子どもの内面を見つめ、主体的な姿を育てていく。